



人類初の
遺伝子ワクチン

子供への 新型コロナワクチン接種



慎重に考えましょう!

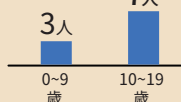
新型コロナワクチンの接種は任意です。また、5歳～11歳の接種は「努力義務」ではありません。将来のある子供へのワクチン接種について、慎重に考えましょう。子供へのワクチン接種のリスクが議論されず、ワクチン接種をただ押し進める政府方針とテレビ報道は果たして正しいのでしょうか？

子供の新型コロナの死亡者

(2022年3月までの2年2ヶ月間の累計)



10人

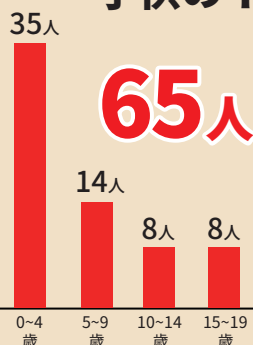


短期的な副反応のリスクに加えて、中長期の影響も不明なワクチンを接種する必要があるのでしょうか？

うち2人はコロナが直接の死因ではなく、4人は基礎疾患のある方、1人は事故で死亡後にPCR検査が陽性だったと報道されています。

子供のインフルエンザの死亡者

(2019年の1年間)



2019年の1年間で、インフルエンザにより20歳未満の子供が65人死亡なくなりました。その倍の2年以上の長い間に、新型コロナで亡くなった20歳未満は10人です。こう比較すると、若年層にとって本当に新型コロナが恐ろしい感染症なのでしょうか？

ワクチンの感染予防効果は 実証されていません

新型コロナワクチンで期待される効果は「発症予防」と「重症化予防」であり、「感染予防効果」の実証は難しいとされています。

厚生労働省の発表

よって、他人へ感染させないために接種するものではありません。

また、「集団免疫効果」についても実証されていません。年間5000万回接種されているインフルエンザワクチンでも、「集団免疫効果」が実証されたことはありません。



厚生労働省資料



日本小児科学会理事の森内浩幸教授は、オミクロン株において、他人への感染予防のために5-11歳の子供にコロナワクチンを接種するものではないことを強調されています。

第29回厚生科学審議会にて

中長期の影響は不明です

新型コロナワクチンは現在臨床試験中(治験中)の実験的ワクチンであり、安全性及び有効性については今後も情報が集積されている状態です。

臨床試験 完了予定日

ファイザー 2024年 2月完了

モデルナ 2022年10月完了

現時点では地球上の誰も中長期的な影響を知りません。コロナワクチンを安易に打って良いのでしょうか？

5～11歳は「努力義務」の対象外です

- 小児におけるオミクロン株の感染状況が確定的でないこと。
- オミクロン株については小児における発症予防効果・重症化予防効果のエビデンスが十分でないこと。
- 小児は重症化の頻度が低いこと。

第30回厚生科学審議会より